とつくり墓

流人　重八の墓

天草市枦宇土町の共同墓地に「とっくり」の形をした古墓石がある。

この墓は天保六年（１８３５）に亡くなった流人東八（重八）の墓である。

流人にもいい流人と悪い流人がいたようである。いい流人の代表は一町田村に流された定舜上人であるが、この東八さんもいい流人であったようだ。

というのも流人の墓を村人が造ることもほとんど例がないと思われるのに、墓を造っただけでなく、墓の形も東八さんが酒が好きだったということで、とっくりという形の墓を造ったことからもよく分かる。

『天草近代年譜』には、次のように記してある。

天保六年九月六日　枦宇土村預かりの江戸出生の流人重八、この日病没し、字平の墓地に葬られる。同人は多少教養有り、同村庄屋の下使として重宝がられたり。性来深く酒を愛せるを以て、時の庄屋小林和仲太、高さ二尺五寸余の徳利型石碑を建て、東水寂流信士なる碑銘を与えて彼が冥福を祈る。

郷土史家の上中満（万五郎どん）氏は、『ふるさと言葉で綴る　続天草歴史こぼれ咄』に、次のように重八さんを紹介されている。

【とっくり墓】この墓のいわく因縁はこうだ。江戸生まれの重八どんは天草へ流人となって枦宇土村庄屋小林和仲太どん預かりの身となっていた。

しかしこの重八どん、流人としては珍しくも読み書き算盤が堪能であったのだ。江戸商人の番頭格ではなかったかと推察する所だが、ともあれ、庄屋和仲太どんとしては流人ながらも、むしろ使用人として重宝な存在であったのである。

おそらくその誠実さも買われたのであろう。また無類の酒好きであったらしく、重八どん亡き後和仲太どんの感謝と心意気がこの〝とっくり墓〟となったのである。天草流人中、幸せな生涯を送り得た一人ではあるまいか。よかったなん重八どん！

まこて芸は身を助くて言うたもん。

こんたはのさっ（のさり）とらすとばな、そんうちわしもあーたばたんねて（あなたを訪ねて）来るけん。酒じゃろかな焼酎じゃろかな。

流人てふ　とくり墓や苔の花

それにしても、重八さんは何の罪で天草に流されたのであろうか。　誤って人を殺したか。いや冤罪かも知れない。

重八さんは江戸出生とあるが、近年江戸送りの流人は

なく、大坂から送られてのは間違いないが、どのような人物でどのように暮らしていて、何時いかなる罪で流されて来たのか皆目分からない。

謎が多ければ多いほど、ロマンを掻き立てられるという側面もある。

ちなみに同時期、定舜上人も天草に流され在住していた。

さて近代年譜には〝重八〟と記してあるが、墓石には万五郎どんの挿絵にもあるように〝東八〟と刻まれている。したがって東八が正しいと思うが・・・。

重八でも東八のいずれにしても、流罪地天草でそれなりに幸せな人生を送った事と信じたい。

挿絵・万五郎どん作
（同書より）

墓石には次のように刻まれている。但し欠けているのもあるので推字には・・を付けた。

江戸出生流人
東八事
東水寂流信士
天保六年九月六日